

第9回 JET地域国際化塾について（開催県：福島県）

開催概要

- 日程：令和6年（2024年）12月4日（水）～12月6日（金）
- 参加者：JETプログラムに参加している外国青年（約70名）と
地方自治体・地域づくり関係者 計80名
- 主催：総務省・福島県
- テーマ：東日本大震災の復興から学ぶ地域づくり

実施内容

● 1日目 地域づくり関係者による基調講演・意見交換

基調講演：一般社団法人NoMAラボ 代表理事 高橋 大就 氏
テーマ: Why Fukushima coastal area is the most exciting now? (なぜ今、福島県浜通り地域が一番熱いのか。)

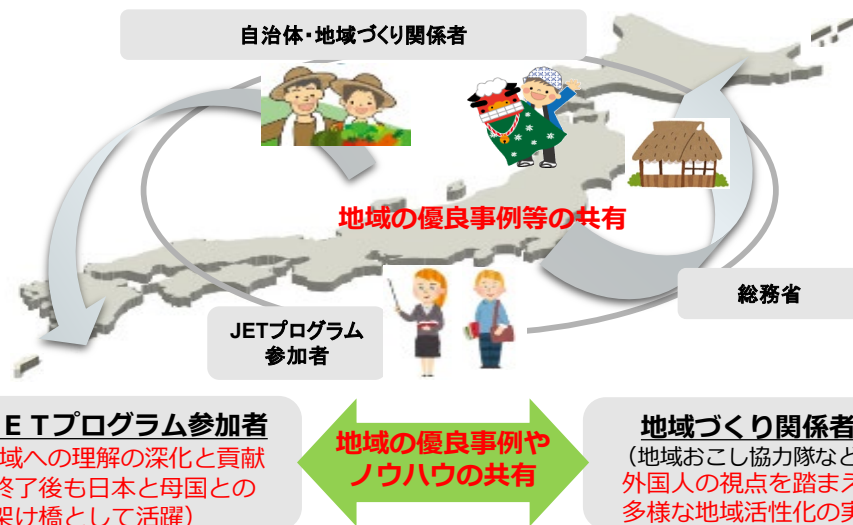
● 2日目 地域おこし協力隊等の地域づくり関係者が活動する地域での現地視察・意見交換

○主な視察先（いわきエリア、相双エリアの2つのグループで、地域おこし協力隊経験者等が活動する地域活性化の現場を体感）

- ・ ^{はっこうば}haccoba：地域おこし協力隊経験者が無人駅内にオープンした醸造所や地域との交流エリアを視察し、
酒造りの担い手の育成や、地域の活性化、地域との交流について意見交換
- ・ ホースバリュー：地域おこし協力隊経験者が活躍する馬の魅力を活用した地域振興について意見交換
- ・ ^{いわきたかはし}磐城高箸：廃校になった校舎を活用し、地元木材を使用した箸や鉛筆の木材加工の製造現場から、
東日本大震災後の地域の活性化の取組について意見交換
- ・ ^{とうのわし}遠野和紙：いわき市の伝統工芸である遠野和紙の製紙技術を未来に継承するための活動に取り組む
地域おこし協力隊経験者等との意見交換

● 3日目 JET青年によるグループワーク・発表

○ 福島県で活動する地域おこし協力隊経験者等の東日本大震災からの復興に関わる地域の活性化の取組を学んだ上で、地域の課題解決や魅力向上のために、自分たちがどのように地域に関わることができるかをテーマに、グループで意見交換・発表を実施。



現地視察・意見交換のイメージ
遠野和紙の技術を学ぶJET青年(福島県広報(2020年10月号))